

無農薬米で酒造り挑戦

八工大、市民団体、八戸酒類 SDGs 実践



丁寧に苗を植え付ける参加者

島守地区 自然に感謝し田植え

八戸工業大学と、八戸市南郷島守地区の活性化に取り組む市民団体「ふるさとルネッサンス」(上野大輔代表)、八戸酒類(橋本八右衛門代表取締役)は、島守地区で育てた無農薬米を原料に、日本酒造りに挑戦する。5日、島守市民サービスセンター近くの水田で、学生や団体のメンバーら35人が「まっしぐら」の田植えを行った。
(岡田圭逸)

2020年夏から八工大と南郷島守地区が取り組む「しまもりSDGs(持続可能な開発目標)実践プロジェクト」の一環として実施した。田植えに先立ち、上野代表50が「島守の新しいページを皆さんでつくって」、水田を管理する地元のコメ農家・谷川幸雄さん(62)が「自然界に感謝しながら田植えを」とあいさつした。

東奥
NET
動



参加者は素足で田んぼに入り、谷川さんの助言を受けながら、7時に約3時間かけて苗を手で植えた。今後は草刈りや稲刈りを行う予定。八戸酒類は11月ごろ仕込みを行い、年内に仕上げられるよう目指す。橋本代表(50)は「従業員が田植えから関わることは、なかなかない。学びを深めながら皆さんと一緒に取り組みたい」と語った。

八工大4年の荒谷伊武樹さん(22)は「手作業はきつかったけど育つのが楽しい。みんなで協力しておいしい酒ができたらうれしい」、八戸酒類社の上井裕文さん(52)は「田植えは初めての体験だが、どんな酒を造るかイメージしながら臨んだ。若い世代に日本酒へ興味を持ってもらえれば」と話した。

プロジェクトリーダーを務める八工大の星野保教授(57)は「八工大にはさまざまな分野の研究者がいる。従来はプロジェクトに関わっていなかった研究者にも可能な範囲で参加してもらい、田んぼの水と土、植物や微生物の状況を分析したり、変化を調べていければ」と話している。

※ 「この画像は当該ページに限って東奥日報社が利用を許諾したものです」